

復興支援フォーラムニュース No. 58

(URL <http://www5a.biglobe.ne.jp/~tkonno/FK-forum.html>)

<事務連絡先> 今野順夫 (tkonno67@gmail.com)

<第55回ふくしま復興支援フォーラムでのご意見等>

1月9日、第55回ふくしま復興支援フォーラムを開催し、50名の参加者がありました。

「原発事故県外避難者が抱える問題と構造 ―タウンミーティング事業の取組・支援活動から見えてきたこと―」をテーマに、佐藤彰彦氏（福島大学つくしまふくしま未来支援センター）から、詳しい報告をいただいたのち、活発な質疑応答が続きました。以下は、提出された文書によるご意見等です。

~~~~~

★ 富岡町の例ではありましたが、自主避難者の抱える問題に共通する点も多く、大変参考になりました。(M.S)

★ 避難者の抱える問題を詳しく説明して頂き理解できました。県外避難と県内避難の違い、自主避難と強制避難の違いなど、問題はそれぞれ違うことも分かりました。各自治体よっての取り組みの違いをもっと知りたいと思いました。富岡町の方向性も未だこれからの様なので、今後の動向が気になります。本日はありがとうございました。(N.I)

★ 3年以上経過して、分断の系譜がますます多岐にわたるようになり、避難者に対して手詰まり感が感じられる。その象徴が被災者がふるさとに対する「断ち切り」が増える理由とも思えた。(Y.T)

★ 標題の「～県外避難者が・・・」につられて出席したが、期待はずれであった。／社会学者特有の話法で、堂々めぐりの、めりはりのない話しに終始して、具体的に得たものは多くなかったように思われる。(S.I)

★ 「不理解」の視点を自分に置きかえてみると、あいまいにしている部分が多いなあと反省しました。また、自治体や国の「不理解」が、ここまで深刻だとは思いませんでした。私たちの情報発信をあらためて考えさせられます。(K.O)

★ 実際には行政はよくやっているのに、伝わっていないことが、公開討論でわかったという話が、やはりと感じた。しかし、今の行政単位がいつまで続くのだろうか。(Y.I)

★ 色々な状況が、よく分かりました。少し難しかったが……。ありがとうございました。(S.O)

★ 構造で示していただいた図を、更に立体的に見ようとした場合、もっとも上位に位置するものは何か考えてみたい。(O.S)

★ 悪意のない「不理解」による政策のズレという分析に共感する一方で、「人間なき復興」を読んだ時に感じましたが、具体的な政策提言にふれないと出口のない閉そく感に囚われる。(T.O)

★ 非常に難しいテーマと感じました。自分にとっては、なかなか身近に感じていないテーマだったので、引き続きチェックしていきたいと思います。ありがとうございました。(S.S)

★ 富岡町や避難者に対する支援や調査等、頭が下がる思いです。今後ともよろしくお

願います。(T.H)

★ 「不理解」「意見の考えのズレ」。これらは、「現場を見ないこと」から出ているのでは。「現場を見ない」「現場を見る機会が少なくなっている」という意見を聞いて、ハッとしました。(Y.I)

★ お話をお聴きしていて、自主避難者の問題とは違うなと思っていたが、聞き終わって段階で、共通するところも思っていたら、同じことを発言された方もおられて、意を強くした。全体として、示唆に富んだ興味深い話でした。(T.H)

★ 避難者をめぐっての構造の分析が、これから必要なことを考える上で、とても参考になりました。ありがとうございました。(H.C)

★ 震災3年目を控え、大変示唆に富む内容でした。しかし、「3年かかってここまで来れた」という時間軸の遅さも再認識しました。市民側の連携強化、提言強化のますますの必要性を痛感します。(R.S)

★ 貴重な資料ありがとうございました。(N.H)

★ 本日は、避難者の方が現時点でどのように考えているか、また先生がおっしゃっていた「不理解」というキーワード、非常に重要な問題であると認識しました。(T.K)

★ タウンミーティングを通して、避難者の多種多様な生の意見（声）を、KJ法により分析された結果から、現状と今後の方向性を解りやすく提示されましたことに感謝申し上げます。(K.F)

★ 立場・経験・考え方・世代・価値観など、異なる者同士がいる中での「不理解」は、当然のことであり、すべての人が“良し”とする結果は出ないもの。ましてや収束の見えない原発問題を抱える福島では尚更。そんな中でも、少しでも多くの人にとって、少しでもプラスになるようにする（思えるようにする）には、一方的ではなく、双方の「理解をしようとする努力」から、信頼をつくることに始まるような気がしました。(補足：例として、行政は「現場に来ない」という批判ではなく、「来ないのは何故?」「来ないならどうするか」「来たら何を伝えたいのか」という前向きで建設的な考え方をすべきかとも思います。)。先生の学問やKJ法で具体化された意見などは、その方法のひとつとして有効なものだと思うので、色々な視点から活かされるべきだと感じています。(A.S)

★ 問題群の余りの困難性に絶句あるのみです。果たして真の復興が成就できるのか、暗澹たる気持ちに陥るばかりです。何とかならないか、絶望の淵から希望が見えてくるのか・・・見えてほしいとの思いが募るばかりです。メディアの分析・報道が余りに粗末で少量である。現在の帰還・復興政策に異を唱えたい。(T.I)

★ 被災者・行政・地域社会・法制度・歴史とか、多数の物事が影響し合っているが、情報の対称性が大事というお話して、勉強になりました。(T.O)

★ 根本原因が「事故の危険性」や「事故収束への疑問」とうかがって、避難者にとっては、震災・原発事故から、時間が止まっているように感じられました。今から社会的合意形成ができるのか、難しい問題ですね。(H.S)

=====

【予告】 第57回ふくしま復興支援フォーラム(2014年2月6日(木) 18時30分～)

テーマ 「福島県の畜産の現状と復興の課題(研究所の視点から)」

報告者 志賀茂氏(福島県農業総合センター畜産研究所所長)

会場 福島市 市民活動サポートセンター

A会議室 チェンバおおまち3F(福島市大町4-15)

## 東京新聞はなぜ脱原発か

東京新聞・中日新聞福島特別支局駐在  
井上能行（東京新聞編集委員）

### ① なぜ、福島にいるか

支局の設置は2012年10月に決まり、12月に開設した。

東京新聞は関東一円で発行しているが、白河の関よりも北では駅の売店にもない。今後も発行の予定はない。新聞を出していないところに支局を置くのは、海外支局以外では異例。

東京新聞でも中日新聞でも、読者は震災報道への関心が高い。

震災報道へ寄せられた読者からの「返信」88億4582万円（広告局制作のPR文）。新聞1部あたり2660円の寄付があったことになる。

### ② 東京新聞の歴史

ルーツは明治17年（1884年）の「今日新聞」。1889年に「都新聞」に改題した。都新聞と1890年創刊の「国民新聞」が1942年10月に戦時統合で「東京新聞」となった。都新聞は文化芸能が得意、国民新聞は政論が特徴だった。1967年に中日新聞に営業権を譲渡。

### ③ 中日新聞の歴史

明治19年に発行された二つの新聞をルーツにする「新愛知」と「名古屋新聞」が1942年9月に戦時統合で「中部日本新聞」となった。新愛知は政友会で、農村部に強く、自由民権運動を支えた。名古屋新聞は、名古屋市内（都市部）で強く、民政党だった。昭和40年に中日新聞に改題。

### ④ 震災前の東京新聞

他とは違う新聞作りを目指した。

（首都圏のローカルニュースを前面に出した）

### ⑤ 震災直後の東京新聞

政府発表の情報しかないのは、すべてのマスコミに共通している。

何を書くかで、読者の疑問に答える紙面作りを目指した（政府発表への疑問、原発事故、放射能への不安）。

読者の疑問・不安は編集局内でも同じと考え、たとえば、子育て中の女性記者数人に知りたいこと、分からないことを箇条書きにして出させ、それを科学部などに渡して、わかりやすく書け、イラストを付けろ、と注文を出した。最初は追求ではなく、わかりやすさを狙った。

疑問を探るうちに、おかしいと感じる記者が出てきた。もともと、特報部が原発に批判的な記事を書いていた。他の部でも、原発を支持する記者がほとんどいなかった。

⑥ 脱原発宣言

読者に押された。朝日新聞、毎日新聞の方が先に打ち出したと思う。

東京新聞では、編集局で意見を統一することはなく、まして、経営陣から指示されることはなかった。個人的には、良き伝統に反するので反対だった。

⑦ 報道への評価

2012年に菊池寛賞とJCJ（日本ジャーナリスト会議）賞を受賞した。一方、2012年6月に大飯原発再稼働に反対する官邸前のデモを報道せず、非常に多くの人から批判を浴びた。

⑧ 何を伝えるか。誰に伝えるか

新聞はどれを読んでも同じ、という時代は去った。

「朝日、毎日、東京」対「読売、日経、産経」とは限らない  
消費税では、全国紙と地方紙が真っ二つに割れた。

首相への評価も微妙になっている。次は憲法。

⑨ 新聞と広告

購読料と広告収入は、日本の新聞社では6：4を理想としている。

新聞社にとっては、部数の方が広告よりも大事。

大企業の圧力を許しているのは、国民にも責任がある。

⑩ 新聞離れ

新聞購読者はなぜ減っているのか。

東京新聞の新たな読者は、これまで新聞を読んでいなかった人たち。

⑪ 東京新聞は今後、何を、どう伝えていくか

意見を聞かせてください。